

かながわ歴史教育を考える市民の会 たより

しゅうまい

かながわ歴史教育を考える市民の会

〒235-0036

横浜市磯子区仲原1-1-28

労働総合センター内

045-773-4465/Fax045-774-8075

<http://www11.ocn.ne.jp/~reksimin/>

No.45 2008年8月10日

2008年度かながわ歴史教育を考える市民の会総会・記念講演

沖縄の現状～基地・軍隊・女性、教育を語る

高里鈴代さん(基地・軍隊を許さない行動する女たちの会共同代表・元那覇市議)

かながわ歴史教育を考える市民の会は5月31日、横浜市開港記念会館で08年度総会を開き、記念講演では沖縄からおいで頂いた高里鈴代さんにお話をいただいた。(後援:神奈川平和運動センター)

文部科学省が教科書検定で、沖縄戦の「集団自決」から日本軍の強制を示す記述を削除させたが、沖縄の状況をしっかり認識することから、戦時体制が進む「今」と教育にどう取り組むか考えたいと企画した。以下は講演の概要である。



基地ある限り続く米軍犯罪

今朝のニュースでアメリカの高官(ゲーツ米国防長官)が、米普天間基地について「2014年までの辺野古への移設完了などロードマップ通り着実に進めよ」と言ったと報道された。沖縄米海兵隊の一部8000人のグアム移駐は沖縄の負担軽減と言われているが、沖縄に米軍基地がある限り沖縄市民の負担は変わらない。

今年も2月10日、米海兵隊員による性暴行事件が起こった。戦後63年にわたって、米兵の女性に対する性犯罪は後を絶たず、表に現れない被害は数知れない。殺傷と破壊の為の訓練を日々重ねる軍隊の本質に起因するものである。

沖縄で米軍犯罪が多い原因は、在日米軍の60%が沖縄に集中配備され、その60%余りが海兵隊員であること、さらにその80%が短期駐留で入れ替わる若年兵士であること、そして「日米地位協定」が駐留兵士とその家族に特別な地位を与えているのである。

朝鮮戦争、ベトナム戦争帰りの兵士の受け皿だった沖縄は、今もイラクの戦場と直結し、兵士による性暴力事件が起こり続けている。イラク戦争に参加した兵士の80%がPTSDとなり、自分も発作的に妻を絞め殺そうとしたという告白がある。那覇で相談員をしていたとき、米兵の相手をした女性から絞め殺されそうになったという相談を何度も受け、実際に殺された女性もいた。相手を確認もせず銃弾を浴びせなければならない戦場から帰った兵士が、どんな人権感覚を持てるだろうか。

沖縄本島では、100万の人口に対し20万の米兵が基地のフェンスの中にいるが、出入りは自由であり、地域住民は認可がなければ出入りできない。すべての犯罪は基地の外で起きている。住民に対する強盗・強姦も、容疑者がアメリカへ逃げ帰ったり、被害者が二次被害を恐れて取り下げたりして犯罪の責任をとらせることが難しい。一部週刊誌やネット上で被害者の女性への非難中傷が盛んになされるなど、日本は女性が被害を訴えにくい社会であることが問題である。また被害者に対する公的サポートも無いに等しい。

日米政府は基地を受容させるために「良き隣人」政策をとり、子どもたちを基地内の子どもと交流させたり、米軍駐留が沖縄にもたらす経済効果を称揚し、米軍の犯罪を矮小化して見せたりするが、みなまやかに過ぎない。米軍の犯罪を無くすには犯罪に対する組織の責任を明確にさせること、日米地位協定を見直すことが必要であり、完全な防止策は軍隊を撤退させることしかない。

軍隊によって起こされた「集団自決」

集団自決と教科書検定をめぐる問題では、07年9月29日に検定意見の撤回を求めて11万人が宜野湾海浜公園に結集した。文科省が「集団自決」から日本軍の強制を示す記述を削除させたのは、当時の守備隊長らが岩波書店と大江健三郎さんを名誉毀損で提訴し、「隊長命令はなかった」と主張していることを材料にしているが、何よりも「日本軍は正しい」ことを教育したいのだと考えられる。

当時は部隊長が島全体を統治して軍隊の網を張り、天皇制教育を徹底し、沖縄の言葉を使うなど疑わしいと思う住民はスパイとして殺害したりした。日本軍のいないところで「集団自決」は起こっていない。自決の証言をする人は、準備の段階から当時の状況がまざまざと甦ってひどく苦しむと聞く。教科書から戦争の実相を消すことを許してはならない。

(文責:石下直子)



この裁判は今年3月28日に大阪地裁の判決が出され、体験者の証言を「いずれも実体験に基づく話として具体性、迫真性を有する」とし、日本軍の深い関与を認定した。

(集会のご案内)

「三国共通教材」作成現場で

編集会議の傍らにいて、様々な見解を表明しながら、共通教材の完成を期待していた。日中韓の三国で、この教材の意義を十分に理解し、多くの学校現場での普及を図りたい。そして、図書館などにも常備して、多くの市民が目にするようになると、研究者としても、また、編集に携わった方々も喜んで貰えるはずだと考えている。

不忘九・一八記念集会 講演 高嶋伸欣琉球大学教授

かながわ歴史教育を考える市民の会共同代表

場所 神奈川県民センター301号室

日時 9月18日(木)午後6時半から

資料・参加費 500円

主催 かながわ歴史教育を考える市民の会
後援 神奈川平和運動センター